



サンビオティック農業で大豊作！

促成いちご 栽培基準



親株定植～子苗育成期

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
11月～3月	親株定植 (無病苗)	(地床栽培の場合) 五穀堆肥 有機百倍 鈴成	親株植付部分のみ 1～2ℓ/㎡ 100g/㎡ 100g/㎡	土壌混和	地床の場合は、親株植えつけ部分の面積(1㎡)当たりの施肥量です。苗床のpHを測定し、6.0～6.5に調整したうえで、元肥を定植の2週間前までに土壌混和します。 親株は無病苗を確保し、定植後速やかに活着するため、菌力アップ200倍希釈液を、2～3回灌水します。水はねしないように注意します。(炭疽病対策) なお、子苗を地床に直接這わせる場合は、有機百倍、鈴成を各50g/㎡を苗床の標準使用量とします。
		(育苗ポットなど 培土栽培の場合) 育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	
	活着促進	菌力アップ	200倍希釈	定植後灌水 2～3回	
4月	ランナー発生	菌力アップ 糖力アップ	200倍希釈 300倍希釈	5～7日おき灌水 (苗数確保まで)	休眠覚醒次第、灌水を始める。菌力アップと糖力アップを施用することで、展開スピードを速め、太く丈夫なランナーを多く取る。徒長する場合は、糖力アップを薄くするか、省略する。
	育苗培土準備	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	健病育成のため鈴成を5%混和する。病害虫に強く、徒長しにくい。培土との混和が難しい場合は、1ポット当たり10gを入れ、軽く指で混ぜる。
5月～7月	子苗育苗	菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈 500倍希釈	5～7日おき灌水	徒長気味の場合は糖力アップを省略する。また、花芽分化の1か月前からは、糖力アップを省略する。灌水は天気の良い午前中に行い、水はねをしないように注意します。(炭疽病対策)
		(防除時) コーソゴールド	500倍希釈	農薬と混用で 葉面散布	徒長抑制と花芽分化促進のため、防除時にコーソゴールドを混用する。窒素過多や病害虫多発の場合は、純正木酢液1000倍または本気Ca(マジカル)1000倍を併用する。

●本圃の土づくり ワンポイントアドバイス！●

本圃の土づくりが成功の決め手です。さらに健全な土づくりをするため、是非土づくりのプログラムに以下の処理をご導入ください。

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
5月下旬 (収穫終了次第)	緑肥栽培	菌力アップ	5リットル	全面散布	地力の回復、塩類の除去、土づくりのため緑肥栽培を組み込むと、土が健全となり収量が増加します。 5月下旬、収穫終了後速やかに、イチゴ残渣をすき込み耕耘し、ソルゴー種子と菌力アップを散布します。ソルゴーが生育し、約2か月後にはすき込み、太陽熱消毒処理に移行します。
		ソルゴー種子	3～5kg		
7月下旬	太陽熱消毒 (養生処理)	菌力アップ	10リットル	全面散布	太陽熱消毒(養生処理)は、薬剤消毒に比べ安全で低コストなうえ、有用微生物を増やすため土づくりにもなる経済メリットが大きい方法です。 菌力アップを使用すると、温度上昇しやすく、消毒効果が高まり、また土壌団粒化を促進します。 処理の具体的な方法は、別途、「太陽熱消毒処理(養生処理)マニュアル」をご参照ください。
		有機物 (バーク堆肥、裁断わら、もみ殻、米ぬか、ふすまなど)	2～3トン		



サンビオティック農業で大豊作！

促成いちご 栽培基準



本圃(元肥～収穫期)

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
8月	本圃準備 (元肥)	五穀堆肥 有機百倍 鈴成	50袋 5～8袋 10袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pH、石灰、苦土などを施用しておきます。 その後、2～3トン程度バーク堆肥などの堆肥を施用します。(五穀堆肥の場合は50袋) 前作で土壌病害が発生した圃場である場合は、「かにキング～」20袋/10aを追加して混和します。 薬剤にて土壌消毒する場合は、消毒後に必ず菌力アップ5～10リットルを灌水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。
9月	定植期	菌力アップ コーソゴールド 純正木酢液	5リットル 2kg 2リットル	5～7日おきに 灌水(4回以上)	活着促進、初期生育の促進。 希釈水量は1トン程度、十分にしみわたる量。 農薬散布時には、コーソゴールド500倍、純正木酢液1000倍を混合散布すると、病害予防、花芽促進等に良いです。
10月中旬 ～5月	収穫期	(収量アップ) 菌力アップ 糖力アップ コーソゴールド	5リットル 5～10kg 2～3kg	7日おきに 灌水(継続) (1～2トンの水で 希釈)	収穫期間を通じて発根作用を停滞させないことが重要。そのため、菌力アップは年内、および春先は必ず施用する。(春先のセンチュウ被害対策にもなります。) 糖力アップは収量アップ、なり疲れ防止で2番花の花芽分化後から灌水はじめ。 コーソゴールドは、食味・品質向上、病害予防。灌水の間隔や量は、生育を見てその都度調整します。
		(花芽・品質向上) コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 1000倍希釈	7日おきに 葉面散布	リン酸と植物酵素、カルシウムを吸収し、玉肥大、食味の向上、軟果防止に効果的です。 味に深みを出すため、本格にがり1000倍の混合もよいです。
病害虫発生時	土壌病害の対応	菌力アップ	10リットル	灌水(水1トン) 3日おき4回以上	萎黄病、炭疽病などは、必ず初期症状で発見し対応する。殺菌剤等を使用したのち、菌力アップで病害の蔓延・拡大のリスクに対応する。 ネグサレセンチュウの場合は、糖力アップ5リットルを混用する。 3日おき4回灌水が終了したら、使用量を半分にして、7日おきに灌水を継続する。
	病害、虫害の対応 (うどん粉等)	コーソゴールド 純正木酢液	500倍希釈 500倍希釈	3～4日おきに 葉面散布(5回)	殺菌剤を併用し、葉面散布します。本格にがり1000倍を併用するとおよい。にがり、木酢は細胞壁や繊維を強化し、コーソゴールドは光合成を向上させ、耐病性を高めます。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※地域、作型によって、時期が異なると思いますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や土壌条件等によって、施肥量は加減してください。